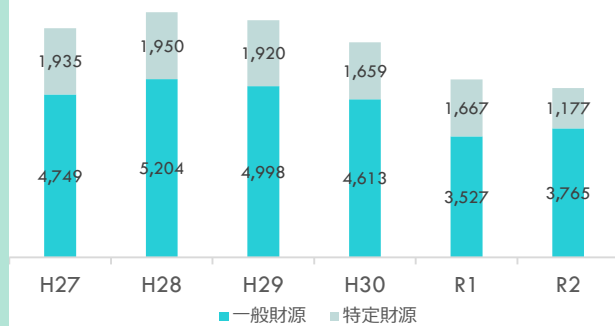
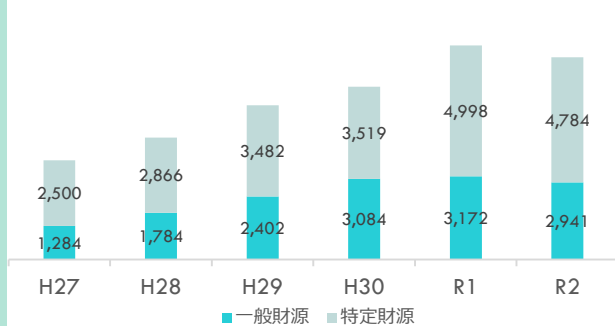


農政水産課

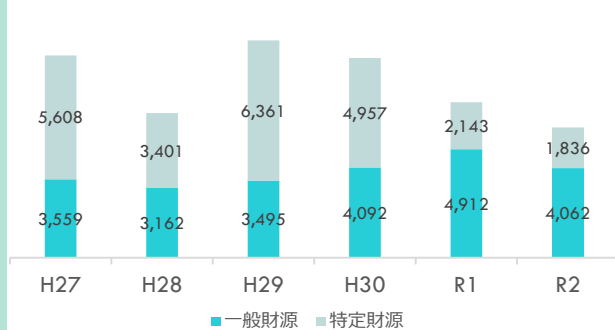
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)



現状と課題

本市の農業は、水稻作付けを中心としていますが、一部地域でブドウ、イチジク、みかんなどの特色ある果樹栽培が行われ、また、加工品の開発・販売なども行われています。しかし、1戸あたりの規模が非常に零細であるため、生産性が低く、高齢化、担い手不足、鳥獣被害の拡大などにより、農家数、耕作面積はともに減り、それに伴う耕作放棄地が年々増加している状況です。

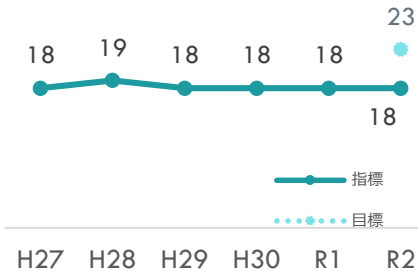
今後もこうした厳しい状況が続いていくことが予想されますが、食の安全性の確保、地産地消活動の普及・拡大、農地の保全などの観点から、農業を守り育てていくことは農業者だけではなく、市民にとっても大事なことであり、担い手の確保に努めるとともに、鳥獣害対策や6次産業化(※)の推進による生産意欲の向上を図っていく必要があります。

また、林業を取り巻く環境も木材価格の低迷や森林所有者の高齢化により、間伐等の管理・保育が不十分な人工林が発生しています。森林の多面的機能が十分に発揮できるような適切な森林整備を推進する必要があります。

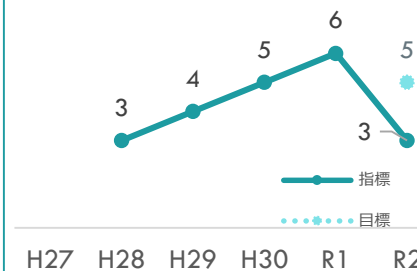
※ 6次産業化：農業が農産物を生産するだけでなく、それを加工し販売するところまで視野に入れた事業展開をすることにより、農業者が多くの利益に関わる仕組みをつくろうという考え方

成果指標

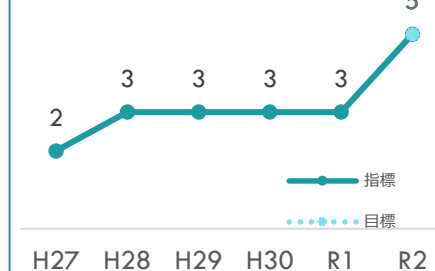
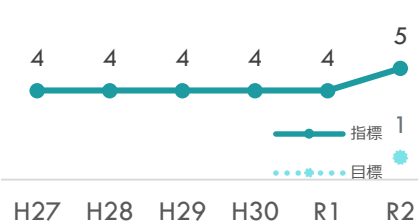
認定農業者数(経営体)



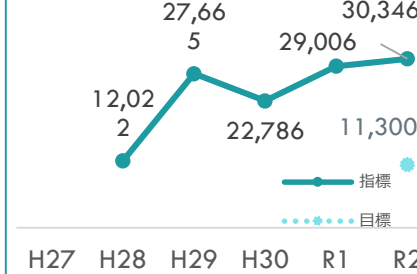
新規就農者数(人)



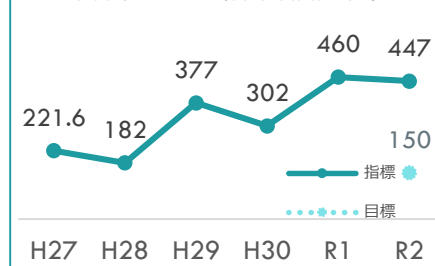
集落営農組織数(団体)

集落営農組織
法人化数(法人)

耕作放棄地(a)



有害鳥獣による農作物被害面積(a)



指標の説明・・・

担い手農家への農地の集約化や集落営農組織化及び法人化を進め、担い手農家を育成することで、効率的な農業経営が可能となります。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
担い手の育成と確保	認定農業者、新規就農者の確保	就農対策制度の活用	臨時的経費	985万円	895万円	就農相談件数8件	新規就農者3名 新規認定農業2名
有害鳥獣対策	有害鳥獣被害防護柵設置事業	防護柵設置費（原材料費）の補助	臨時的経費	298.5万円	—	実施者数：18団体、5個人	設置延長：11,145m
耕作放棄地の解消	農地の利用集積	農地の利用状況の把握・仲介	経常的経費	96万円	96万円	耕作放棄地の把握 30,346a	新規利用権設定 1,714a
農業用施設の維持管理	補修等が必要な施設の把握	農業用施設の補修等	経常的経費	595万円	—	修繕箇所N＝29箇所	施設の機能を高めた
森林整備の推進	森林経営管理制度	人工林（杉・桧）所有の個人に対し、管理等の意向調査を実施	臨時的経費	141.1万円	141.1万円	意向調査8名 筆数32 面積18.6624ha	市へ管理希望：1名 筆数2 面積0.05ha 自己管理：2名 筆数7 面積5.79ha 売却：1名 筆数2 面積0.5ha 未回答：4名

施策の評価

一次評価者	役職	農政水産課長	・農業者の高齢化に伴う担い手不足や、耕作放棄地の増加については、なかなか解消されませんが、引き続き積極的な農家による農地の集積や新規就農者の受入れにも取り組んで行きます。また、耕作意欲を低下させる獣害対策については、駆除と防護柵設置の両面での対応をしていきます。 ・森林経営管理制度の推進による人工林の所有者への意向調査や整備計画を行い、長期間にわたって森林整備に取り組んで行きます。令和3年度から計画的な実施に向けて再検討を行っていきます。
	氏名	中畑 喜久弥	
二次評価者	役職	産業部長	高齢化や後継者不足など、近年の農林業は多くの課題を抱えている。さらに耕作放棄地の拡大や鳥獣被害などが、農家だけでなく地域の課題ともなっており評価の低さにつながっているものと思われる。引き続き担い手の確保・育成及び農地の集積を進めるとともに地域ぐるみでの対策を促進するよう、制度や事業の周知・啓発に努める必要がある。林業については、森林環境譲与税を活用して、森林が有する公益的機能を保全していかなければならない。
	氏名	岩崎 和久	